

授業科目の内容等

国際文化研究科 国際文化システム専攻

【 共通科目 】

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
文化人類学特論Ⅰ	2	李 鎮榮	この講義は文化人類学的社会分析ができることを狙いとする。大きく人間の営みを人・自然・超自然に分け、各分野における文化人類学の考え方を紹介する。「文化」とは人を取り巻く最も重要な環境であり、人間の行動を決定付けるのかを理解してもらいたい。講義に際して講義形式は最小限に留めたい。受講生による発表と議論を中心に考察していく。
文化人類学特論Ⅱ	2	李 鎮榮	この講義は文化人類学的社会分析を狙いとする。前期の文化人類学特論Ⅰに続いて、主に人間と超自然、人間と法（社会統制）を中心テーマに考えていく。講義に際して講義形式は最小限に留めたい。受講生による発表と議論を中心に考察していく。
経済政策特論	2	宮平 栄治	経済政策は、他の経済学分野と違い、極めて現実的課題を扱う。例えば、自然科学においては実験等を通じてデータを収集し、再生可能な情報を、他の社会科学においてはアンケート等を通じてデータを収集し、再生の可能性が高い情報を得、理論構築と展開を行うが、経済政策では実験を行い、失敗をする事はできない。この点を踏まえ、この講義では、経済政策の決定に関する諸課題を扱い、日本および世界経済の診断を行なう。
社会心理学特論Ⅰ	2	木村 堅一	大学院で扱う研究対象は「言語」、「経営」、「情報」、「環境」、「政策」、「健康」など幅があるが、実は共通点も存在する。どの領域の研究者であっても、必ずその研究対象に関わる現象を測定し、測定されたデータを加工、分類、比較、解析して、学術貢献あるいは社会貢献するための「新たな知・技術」を生産することを目的としている。本講座では、大学院での修士論文の執筆に役立つ社会心理学の「研究法」に焦点を当てる。また、社会心理学の研究法を学ぶことによって、受講生自らの研究デザインをお互いにブラッシュアップしあうことを目的とする。

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
社会心理学特論Ⅱ	2	木村 堅一	<p>大学院で扱う研究対象は「言語」、「経営」、「情報」、「環境」、「政策」、「健康」など幅があるが、実は共通点も存在する。どの領域の研究者であっても、必ずその研究対象に関わる現象を測定し、測定されたデータを加工、分類、比較、解析して、学術貢献あるいは社会貢献するための「新たな知・技術」を生産することを目的としている。本講座では、「社会心理学特論Ⅰ」に引き続き、大学院での修士論文の執筆に役立つ社会心理学の「研究法」に焦点を当てる。また、受講生自らの研究デザインをお互いにブラッシュアップしあうことを目的とする。</p>
環境生態学特論Ⅰ	2	田代 豊	<p>サンゴ礁海域の環境は、人間活動の様々な影響を受けている。本特論では、主として水質変化を介しての影響に関する最新の研究の動向を学習する。授業は学術論文等（主として英文）を各自で読解し内容をまとめたものを、受講生相互が発表する形式で進行する。</p>
環境生態学特論Ⅱ	2	田代 豊	<p>砂浜は、人間社会に様々な恩恵を与える反面、人間活動の影響を直接受けることが多い環境である。本特論では、砂浜における環境と生態系に関する理解を深めることを目的として、その物質とエネルギーの動態について理化学的な見地から解説する。</p>
人間健康科学特論	2	小川 寿美子	<p>人々の健康を守る人間社会の営みを、医療者や専門家に任せておけばよいという時代はもう終わった。自分のからだと心の主人公はやはり自分であり、よき医療者を得たり、医療者との良い関係を保ったり、保健医療を浴したり、環境や社会をより健康的に変えていったりするのにも、保健医療の利用者・消費者である一般の人々の責任と行動に負うところが益々大きくなってきている。</p> <p>本講義では、大学院の共通科目として、単に知識を提供したり開設を加えたりするだけでなく、各章で取り上げている問題を受講者が自分の健康問題として考え行動してもらうことを重視する。更に、講義の一部は英語で「健康科学」を考える機会を設けることにより、他言語での学びを通じ、大学院の教養レベルの基礎的知識を多角的に習得できるようにする。</p> <p>受講生は、これらの学びの過程をそれぞれポートフォリオ（本科目を学ぶ過程で得た知識、スキル、成果の達成過程を示すファイル）にまとめる作業を通じて、体系的な知識の構築手法を学ぶ。</p>

【 言語文化教育研究領域 】

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
言語文化研究演習Ⅰ	4	山里 勝己	修士論文作成に向けての指導を行う。研究の意味研究者のありがたさなどをまずは議論する。それから、プロポーザルの作成に向けた基礎的なリサーチ、資料収集、先行研究の調査・分析、文献一覧作成、テーマを選択するための学生による報告と双方向のディスカッションを中心とした指導を行う。
言語文化研究演習Ⅰ	4	山田 均	修士論文の作成を指導する。一つのテーマを立てることから、資料収集、その整理、論文の骨格作り、実際の執筆、註のつけ方など、論文というかたちで高度な研究内容を表現するための一切を指導する。 一応、時間割に演習の時間（火曜2時限目）をさだめてはあるが実際には学生個人々人との個人指導であり、講師との相談で時間を定めて個人指導を行う。
言語文化研究演習Ⅰ	4	住江 淳司	まず、修士のテーマを定める。そのテーマに即した先行研究に関する文献を集める方法から始め、図書館のレファレンスコーナーを活用する。演習Ⅰでは研究史を作成ところまでを指導する。
言語文化研究演習Ⅰ	4	渡慶次 正則	Seminar in Language and Culture I 2履修条件 特になし
言語文化研究演習Ⅰ	4	中村 浩一郎	(1)アジアの言語、特に日本語と中国語の統語構造、意味解釈についての知識を習得する。 (2)修士論文で取り上げる内容を決定し、リサーチ・プロポーザルを作成する。
言語文化研究演習Ⅱ	4	山里 勝己	言語文化研究演習Ⅰに引き続き、修士論文作成の指導を行う。テーマのさらなる絞込み、方法論の確定、参考・引用文献一覧の厳密な検討、資料収集、先行研究の批判的、論文執筆を、双方向のディスカッションを中心とした指導を行う。
言語文化研究演習Ⅱ	4	山田 均	演習Ⅰに引き続き、修士論文の作成を指導する。一つのテーマを立てることから、資料収集、その整理、論文の骨格作り、実際の執筆、註のつけ方など、論文というかたちで高度な研究内容を表現するための一切を指導する。 一応、時間割に演習の時間（火曜2時限目）をさだめてはあるが、実際には学生個人々人との個人指導であり、講師との相談で時間を定めて個人指導を行う。

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
言語文化研究演習Ⅱ	4	住江 淳司	修士論文の研究史を完成させ、中間発表を経て、修士論文を完成させることを最終目的とする。
言語文化研究演習Ⅱ	4	渡慶次 正則	修士論文の研究・プロポーザルを完成させ、中間発表を経て、修士論文を完成させることを目的とする。
言語文化研究演習Ⅱ	4	中村 浩一郎	修士論文のテーマを決定し、研究・プロポーザルを作成し、中間発表を経て、修士論文を完成させることを内容・目的とする。
言語学特論Ⅰ	2	中村 浩一郎	理論的研究分野としての言語学の基礎を身につけ、言語学研究の方法を学ぶ。
言語学特論Ⅱ	2	中村 浩一郎	言語理論研究分野の中核をなす統語論についての知識を深め、統語的分析方法を学ぶ。
英文学特論	2	瀬名波 榮喜	イギリスロマン派詩人ワーズワースとコールリッジの詩論と作品を中心に研究する。ただし、他のロマン派詩人にも言及する。特にその背景となったフランス革命や人間と自然との関係を論じたい。本講義は作品と詩人の生きた時代精神、政治・宗教的思想との関係そして作品の現代性等の研究を目的とするもので、その成果を期待する。
米文学特論	2	山里 勝己	20世紀後半（1950年以降）を代表するアメリカの詩を鑑賞・分析し、アメリカ詩の伝統と盛期モダニズムとの関係を研究する。このような研究方法を通してアメリカ文学の特質を理解することを試みる。
地域言語学特論Ⅰ	2		琉球語、日本語、韓国語、英語等の特定言語研究に関する方法論を研究する。音声・音韻・語形成、統語構造、談話構造、意味の構造などが中心的話題となる。また、時代的には20世紀初頭から今日までとなる。
地域言語学特論Ⅱ	2		社会言語学的視点から特定言語の多様性について研究する。地域社会、年齢、職業、集団、地位、性別、教養、親密度等の要因で言語がどのように変化するかが中心的話題となる。また、複数の言語が接触することによって起こる現象にも触れる。
英文法特論	2	中村 浩一郎	英語の文法についての専門的な知識を身につける。
英語音声学特論	2	中村 浩一郎	英語音声学に関する専門的な知識を身につけさせる。

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
英語教授法特論 I	2	渡慶次正則	<p>This course is geared toward the needs of those graduate Students planning to pursue a career in teaching English language. The readings are intended to provide an understanding of the field of language teaching in general and, more specifically, to illustrate the most effective methods of teaching English language to those whose native language is other than English. The readings review the history of second foreign language teaching, twentieth century trends and developments and the current theories and methods most widely recognized today, as well as the two skill areas of aural comprehension and oral production. Various popular methods of the past and present will be demonstrated and practiced, following which their merits and demerits will be discussed. Students will also learn how to evaluate methods, materials and techniques independently as well as how to work on syllabus development for different level language classes. This course is the first semester of a two semester seminar Course. Part II is given annually during the second semester.</p>

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
英語教授法特論Ⅱ	2	渡慶次正則	<p>This course is the second semester continuation of the TESOL seminar given during the first semester. It is geared toward the needs of individuals planning to pursue a career in teaching English language, primarily to native speakers of other languages. The readings and activities are intended to provide an understanding of the field of language teaching in general and, more specifically, to illustrate the most effective methods of teaching English language to non-native English speakers. The readings will focus on reading comprehension and written composition skills. Popular methods, past and present, will be demonstrated and their merits discussed. Readings on comparative studies of L1/L2 learners, “good” LLs, “world English”, and other current topics will also be covered. Students will learn how to evaluate methods, materials and techniques independently and how to work on syllabus development. They will present a demonstration class and participate in at least one professional meeting such as JALT or JACET to meet others individuals involved in language education.</p>
英語教育評価特論	2	渡慶次 正則	<p>4技能の評価方法を中心に、評価の妥当性や信頼性、実用性を学ぶ。教室や教室外における現在の評価の問題（issue）を取り上げる。</p>
リサーチ方法特論	2	渡慶次 正則	<p>社会科学や人文科学における質的研究と量的研究の基礎的な知識と技能を身に付け、リサーチ・プロポーザル完成の支援をするリサーチの概論コース。修士論文の構成や論文作成上の留意点を話し合う。</p>
理論言語学特論	2	中村 浩一郎	<p>言語理論の基本を身に着け、言語学的な思考方法を習得させる。</p>
比較教育文化思想特論	2	嘉納 英明	<p>本講義では、人間の成長・発達に大きな影響を及ぼす教育的営みについて考える。教育という営みは、社会全体の諸事象と密接に関わるものであるから、講義の内容は、まず現代に至るまでの社会における子ども観の変容を概観する。次に、近代の公教育確立以降の教育制度改革と教育権利論、生涯学習社会の到来を導いたラングランの思想を読み解き、今後の日本教育の進むべき方向を考える。</p>

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
琉球歴史学特論	2	井上 秀雄	<p>琉球王国は、日本の歴史の中の地域史として位置づけることは出来ない。東アジア全域にわたって交易した独立国家であった。この講義では、中国をはじめとする東アジア全域との交易の歴史を、「歴代宝案」という外交文書を解読しながら理解する方法をとる。</p>
沖縄地域文化研究特論	2	中村 誠司	<p>受講学生のこれまでの「沖縄の歴史文化」に関する基本学習・知識を磨きなおし、その深化を図る。講義は、「沖縄の歴史と文化」（沖縄県教育委員会、2000年）をテキストに構成・展開するが、地域イメージと理解、研究方法を具体化するため名護・やんばるの事象・事例を積極的にとりあげる。さらに、地域文化の現場・現物経験の重要性を考え、＜野外講義＞として資料機関見学、地域巡身を設定する。</p> <p>受講学生は、各回のテーマについて「テキスト・講義ノート」を作成する。</p>
東南アジア文化特論	2	山田 均	<p>東南アジアを中心にアジアの文化事象について論じる。文化事象のどの部分に焦点を当てるかは受講者の興味関心による。当面は、言語を使った表現、詩、演劇、芸能などを扱う。</p> <p>「読む文学」というより「聞く文学」「語る文学」「見る文学」であるから、毎回必ず視聴覚教材を使う。</p>
中南米文化特論	2	住江 淳司	<p>ラテンアメリカは、日本から地理的に最も遠いという理由で馴染みの浅い地域でありました。しかし、世界的に見た場合そのプレゼンスは大きいものです。たとえば経済の規模は東アジアに匹敵しますし、混血社会は対立をはらみながらも人間社会の一つのあるべき姿を代表としています。今日の民族的、宗教的な地域紛争の解決のモデル地域になる可能性を含んでいるかも知れません。また、ラテンアメリカは数多くの独創性に富んだ思想、文学、芸術を生む舞台でもあります。政治、経済、社会研究においても多くの優れた成果を生み出してきました。つまり、我々はラテンアメリカから多くのことを学びえるのです。</p>

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
第2言語習得特論	2	渡慶次 正則	<p>過去の研究成果から次の点を学ぶ。</p> <p>(1) 第2言語がどのような過程で習得され、どんな種類のインプットやインタラクションが習得につながるのか</p> <p>(2) 社会的な要因と第2言語習得についての研究成果を学ぶ。</p> <p>(3) 第2言語習得の個人差はどのようにして生じるか。</p>
琉球・沖縄歌謡特論	2	平山 良明	<p>日本文学に位置する沖縄文学の秀れた発想法について学ぶ。</p> <p>① 「おもろさうし」の研究を通して、文学の誕生、展開、それらの生活化について学ぶ。</p> <p>② 「おもろさうし」、及び南島歌謡の研究を通して、古代人の神概念、世界観を考える。</p> <p>③ 「おもろさうし」、及び南島歌謡の研究を通して、現代沖縄語の成立過程を学ぶ。</p> <p>④ 「おもろさうし」及び南島歌謡を総合科学として位置づけ、深い理念を求めていく</p>

【 社会制度政策教育研究領域 】

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
社会制度政策研究演習Ⅰ	4	高嶺 司	修士論文の作成へ向けた準備段階のセミナーで、修士論文のタイプ、作成目的、研究を進める上での予見できる問題点、主題の選定、研究計画（リサーチ・プロポーザル）、論文の構成、論文の書式などについて、関連文献やディスカッションを用いながら学ぶ。
社会制度政策研究演習Ⅱ	4	高嶺 司	修士論文の完成へ向けたセミナーで、社会制度政策研究演習Ⅰで終了した作業を踏まえ、修士論文の総仕上げと校正を行う。
国際政治特論Ⅰ	2	高嶺 司	本講義は、過去数十年の急速な経済成長を背景に、国際社会における存在感を増しているアジア太平洋諸国（日本、中国、台湾、韓国、北朝鮮、ロシア、オーストラリア、ニュージーランド、ASEAN、南太平洋島嶼国）の国際関係を考察する。具体的には、アジア太平洋地域の複雑でダイナミックな国際情勢を、政治外交、経済協力、地域機構、民主化、社会変動、領土問題、安全保障、といった多角的な視点より考察し、21世紀の地域社会におけるアジア太平洋地域の役割と可能性、さらにその限界を展望する。
国際政治特論Ⅱ	2	高嶺 司	過去30年間、政治経済から文化や科学や環境に至るあらゆる領域において、グローバル化と称される「地球規模のスケールをともなった相互接続」が顕著となってきている。本講義では、グローバル化（Globalization）をキーワードに国際政治経済の動向と問題点を深く考察する。具体的には、地域統合、国際貿易と金融、安全保障、民主化と人権、貧困と開発、環境問題、NGO運動、情報通信革命、テロリズム、捕鯨問題、文明の衝突といった問題に焦点をあてながら現代の国際情勢を解説する。
開発経済特論Ⅰ	2	野崎四郎	一国の経済発展には「奇跡」と「驚異」もなく、一つの「王道」があるだけであり、それは質の高い労働者と先見性のある企業家、それと優れた官僚組織といわれている。この講義を通して奇跡とされる経済発展や経済開発について考えたい。

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
開発経済特論Ⅱ	2	野崎 四郎	<p>一国の経済発展には「奇跡」と「驚異」もなく、一つの「王道」があるだけであり、それは質の高い労働者と先見性のある企業家、それと優れた官僚組織といわれている。この講義を通して奇跡とされる経済発展や経済開発について考えたい。特に後期においては日本、沖縄も強く関係するアジアチャイナプラスワンの成長のトライアングルを検討したい。</p>
国際関係論特論Ⅰ	2	高嶺 司	<p>国際関係の理論、米外交政策、日本外交、沖縄と周辺諸国（地域）との関係、国際政治史、時事問題などからテーマ」を選び、セミナー式の講義をする。</p>
国際関係論特論Ⅱ	2	高嶺 司	<p>私の専門領域である安全保障、戦争と平和、日中関係、沖縄の戦後政治史などを中心とした講義で、修士論題の選択へ向けて、学生の基本的な知識とモチベーションを高める。</p>
地域開発政策特論	2	宮城 敏郎	<p>経済のグローバル化、高度情報化（IT革命）の急速な進展に伴って地域の経済環境は大きく変化しており、従来の中央集権的タテワリ行政システムの中で地域の開発政策を考えるのは困難である。</p> <p>本講義においてはこうした状況を踏まえ、経済的自立の条件とは何か、産業集積のメカニズムとは、競争優位を創出するためには何が必要か等、地域の視点（「地方の時代」）から経済の発展について考えていく。後半は実際に沖縄振興開発計画等にふれつつ、開発政策が沖縄の経済的自立にどう影響しているかについて考察していく。</p>
都市政策特論	2	高嶺 晃	<p>都市計画（まちづくり）の「基本理論」をもとに「事例視察」を相互に行い計画と実例を実感させる、また、時代のニーズによる「まちづくりの変遷」等から「計画論」と「実現性」の紹介。</p> <p>「まちづくりのプレゼンテーション」の作成をセミナー方式により行う。</p>

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
地方自治特論	2	渡名喜 庸安	<p>本講義では、地方政府とも言われる地方公共団体（沖縄県や那覇市・名護市・本部町など、以下「自治体」という）について、「地方自治特論」という講義名称のもとで、日本国憲法による地方自治体の保障の意義、自治体の仕事・（これは一般に「事務」といわれる）とこれを行う組織の仕組みや特徴、自治体の仕事の中でも特に重要な役割をもっている条例制定の問題、自治体における住民の地位や権利の種類や内容について、それぞれの制度趣旨・制度内容を明らかにするという観点から、講述していきたい。これらのことを学ぶことを通じて、地方の政治・行政への理解を一層深めることができるようにしたい。</p> <p>なお、講義の進捗を見ながら、地元の名護市役所（議会を含む）に実際に赴き、講義で扱ったそれぞれの項目（組織活動内容など）が名護市においてはどのような仕組みになっているか、それが実際にどのように運用されているのかについて見聞を深めるために、議会の傍聴や教育委員会へのヒヤリングを実施する予定である。</p>

【 経営情報教育研究領域 】

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
経営情報研究演習 I	4	アリ, ファテヘルアリム. F.	情報システム構築と活用 (Web アプリケーション, 計算知能, ネットワーク等) に関する研究を行う。
経営情報研究演習 I	4	宮平 栄治	研究演習 I では, 修士論文の作成方法と目的を学ぶ。すなわち, これから深めようとする領域の全体像を把握するとともに, 極めようとする分野と全体との関連性を体得する。修士論文作成は, 理論, 比較, 実証, および事例研究の基礎作りでもある。そのため, 研究演習 I では関連領域の学問体系の把握に努め, 把握後は各自のテーマに適した研究方法で修士論文作成を行う。すなわち, 文献研究では, オリジナルな内容を伝える原著や原論文をまとめ, 多角的視点から研究を行わねばならない。
経営情報研究演習 I	4	金城 亮	本演習は産業・組織心理学分野の研究活動を行う演習である。修士論文執筆に備えて関連研究等の幅広いリサーチを行い, 理論的枠組みの強化をはかる。同時に, 妥当性・信頼性の高い測定尺度や実験課題等の収集/開発を行うために, 予備的なデータ収集と分析を実施する。さらに, 種々の統計分析手法に関する理解を深めることを目的とする。
経営情報研究演習 I	4	中里 収	本演習では, 音声対話・表情・ジェスチャーといった, コミュニケーションに関する現象を扱う。 コミュニケーションシステムの開発を題材にして, 実験計画, データ分析, プログラミング技法および研究方法を習得する。 前半は, 主に文献研究, 発表練習などをおこなう。 後半はシステム設計, プログラミング技法, システム評価などについて演習する。
経営情報研究演習 I	4	木村 堅一	本演習は, 社会心理学における対人心理学研究・対人コミュニケーション研究に焦点を当て, それらの先行研究の読解・分析, 仮説の発展, 研究目的と手法の選択, 行動の数量化, 仮説検討といった一連の研究プロセスを理解した上で, 各自で研究計画を決定, 実行を指導する。

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
経営情報研究演習Ⅰ	4	仲尾次 洋子	本演習では、会計分野（財務会計や国際会計）における文献研究を行うとともに、修士論文の作成方法を習得する。
経営情報研究演習Ⅱ	4	アリ, ファテヘルアリム. F.	修士論文作成に向けた研究とその成果を発表し、修士論文を完成させる。
経営情報研究演習Ⅱ	4	宮平 栄治	研究演習Ⅱでは研究演習Ⅰで学んだ理論的枠組みから修士論文テーマに関する論文を作成する。修士論文の作成に当たって常に理論的枠組みのどの部分を体系立てているのかという全体と部分を意識し、また、現実との比較を通して、理論の限界を認識するとともに、理論化できない諸現象へのアプローチ方法も学ぶ。
経営情報研究演習Ⅱ	4	金城 亮	本演習は産業・組織心理学分野の研究活動を行う演習である。当分野の研究演習Ⅰを履修済みであることを前提としている。本演習では研究演習Ⅰにおいて設定したテーマと予備分析に基づき、実証科学的アプローチによってデータを収集・分析し、修士論文にまとめることを課題とする。また、研究成果について少なくとも3回の報告発表（テーマ発表・中間発表・最終発表）を義務づける。
経営情報研究演習Ⅱ	4	中里 収	本演習では、音声対話・表情・ジェスチャーといった、コミュニケーションに関する現象を扱う。コミュニケーションシステムの開発を題材にして、研究方法や論文執筆の手順を習得する。前半はシステム設計、システム評価実験などの演習を行い、後半は修士論文の執筆法を演習する。
経営情報研究演習Ⅱ	4	木村 堅一	本演習は、経営情報研究演習Ⅰ（木村担当）に引き続き、社会心理学における対人心理学研究・対人コミュニケーション研究に焦点を当て、それらの先行研究の読解・分析、仮説の発展、研究目的と手法の選択、行動の数量化、仮説検討といった一連の研究プロセスを理解した上で、各自で研究計画を決定、実行を指導する。
経営情報研究演習Ⅱ	4	仲尾次 洋子	本演習では、研究演習Ⅰで学んだ理論的枠組みをベースに修士論文を作成する。

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
経営活動情報特論	2	田邊 勝義	<p>情報化社会における企業経営のかかえる課題と解決策について考察する。</p> <p>毎回、ある課題をとりあげ、その課題に関する資料を読んできて発表し、意見交換する形式および最近のトピックの中から選定した題材について調べ、発表し、意見交換する。</p> <p>情報化社会における経営活動の変化を絶えず推し進めてくる大きな力を感じ取り、それが動いていく方向を読み取る目を養う。伝統的な理論に対し疑問点を見つけ、自分なりの切り口や独自性を出した理論を考える姿勢を身につけることを期待する。</p>
地域活性化特論	2	宮平 栄治	<p>沖縄県は島嶼県であり、地域活性化においても他地域とは異なる手法が必要である。そのため沖縄県においては一般的な地域活性化策を踏まえ沖縄県の特徴を加味した地域活性のあり方が必要である。本講義においては、前述の沖縄県の地域特性を踏まえつつ、地域の概念と活性化の概念についての経済理論、マーケティング論およびわが国や諸外国の地域活性化策の推移から把握し、地域活性化についての概念と目標を確定する。確定後は、事例研究をとおして地域活性化においては、その地域の持つ地域資源の発見と商品化と産業化の必要性を理解する。商品化と産業化における比較優位性理論とマーケティングによる販売促進の重要性を学ぶ。また、地域活性化の担い手としての官・民・企業およびNPOの目標の共有化、リスク分散と協業の必要性を理解することである。</p>
経営戦略特論	2	林 優子	<p>この講義では、基本的な経営戦略に関する理論を体系的に理解することを目的として進めていく。企業を取り巻く環境は常に変化し続けているため、その中での採るべき戦略も変化・進化をしていると考えられる。そこで基本的な論点を踏まえながら、企業競争や企業革新を遂げていくための戦略とはどのようなものかを研究していく。</p>
ネットワーク産業特論	2	宮平 栄治	<p>この講義では、情報時代における市場、産業および企業の特徴、企業戦略と産業育成、誘致および連携に関して、経済学の諸原理を援用させながら、市場、産業および企業を考察する。</p>

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
情報交流特論	2	中里 収	<p>本講では、人間同士の音声対話および人とコンピューターとの音声対話について研究する。前半は計算機上でどのようにして音声データが処理されるかを学習する。後半は対話の理論を踏まえた上で、実際に対話データを収集・分析してみる。人が対話している場面で、音声情報や視覚情報がどのように利用されているかを研究する。また、この講義を通して、文献検索、データ処理、プレゼンテーション方法を学ぶ機会とする。「過去の事例を調査し論理的に思考し、わかりやすく説明する」という訓練でもある。</p>
小集団心理学特論	2	金城 亮	<p>本特論では、集団、特に継続的な対面的相互作用のある「小集団」のダイナミクスに焦点をあてた議論を展開する。講義計画の前半では、小集団のグループ・ダイナミクス研究領域において、重要な諸変数を扱った研究事例をレビューする。後半はクラスで選定したテーマに沿って、実際の研究計画を策定し、データ収集ならびに統計分析を行う演習を実施する。それらを通して、効果的な集団活動のあり方について検討する。</p>
人的資源管理特論	2	金城 亮	<p>この講義科目では、人的資源をいかに管理するかというテーマに関して、人的資源管理論および組織行動論の見地から問題を発見・考察すると同時に、効果的な管理方法を学習する。さらに産業組織心理学の知見に基づき、ワーク・モチベーションや組織コミットメントなど被雇用者の観点からみた人的資源管理の課題を検討する。また、組織の情報化に伴って変化しつつある人事情報管理についても考察を深める。</p>

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
比較経営学特論	2	宮城 敏郎	<p>経営学は企業の戦略・組織・行動を分析する際に、企業の経済的合理性すなわち企業の目的は利潤の追求であるという「資本の理論」を軸に分析してきた。たとえば、R. H. コースは「企業と市場」論において企業は取引費用を節約するために市場でなされていた取引を組織化したと述べた。また、O. E. ウイリアムは階層的組織の優位性が市場メカニズムより優れている点を挙げ、A. D. チャンドラーは近代大企業の成立と発展において内部組織が市場メカニズムより優越していることを歴史的分析によって明らかにした。しかし、比較制度分析の視点に立てば、アングロ・アメリカン・モデルが唯一無二の最適組織とは言えない。経済的システムには多様性があり、歴史的経路と社会の制度体系に依存することは明らかである。</p> <p>本講義では企業・市場（経済システム）・社会システムという総合的視点と比較経営学的視点に立ち、各国の企業組織について考察していく。</p>
e-ビジネス特論	2	田邊 勝義	<p>インターネットをインフラとしたビジネスが一般化してきており、ビジネスの形態が変わってきた。本講義では、インターネットビジネスの基礎からオンライン・ビジネスへの参入方法、Webマーケティング、e-ビジネスの背景にあるテクノロジー等を学ぶと共に、インターネットにおけるビジネスモデルについて考察していく。</p>
情報知能特論	2	アリ, ファテヘルアリム. F.	<p>計算機による知識情報処理の基本的考え方、方法論、応用、更にその論文等の読みとまとめについて学ぶ。</p>
会計学特論	2	仲尾次 洋子	<p>企業活動や投資活動のグローバル化に伴い、企業の実績を国際的に比較可能にするためのグローバルスタンダードとしてIFRS（国際財務報告基準）の導入が必要とされている。本講義では、IFRSを念頭に置きながら、英文財務諸表の読み方について学び、ケーススタディを行う。</p>

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
国際マーケティング特論	2	平敷 徹男	<p>本講の主眼は、マーケティング概念の理解をもとに、ボーダーレスに展開されるマーケティング問題の考察にある。否応なく、国際競争に巻き込まれるグローバル化時代における各種組織のマーケティング問題を実践に即しつつ、理論的・体系的に学ぶ。文化、経済、政治的環境等々国内マーケティングと違う複雑な環境下におけるマーケティングの展開を国・地域間の共生を視野に入れて考えてみたい。</p>
システム・シンキング特論	2	宮平 栄治	<p>経済政策や経営戦略を行った場合、当初の計画では予期しない副作用、競争相手からの反撃などに遭遇する。そのような計画を行う際、ブレインストーミング法、KJ法やロジカルツリー等で十分検討したはずである。何故そのような意図しない結果が生ずるのかについて、我々の社会におけるフィールドバッグ、相互依存、経路依存性やタイムラブなどの複雑な動きを加味したのがシステム・シンキングである。</p>
情報・通信技術特論	2	アリ, ファテヘルアリム. F.	<p>Theoretical and experimental design of telecommunication and data communication systems are discussed. Standards for systems and networks, and regulations governing various issues in telecommunication sectors are explained. Legal issues related to applications are also investigated.</p>

【 観光環境教育研究領域 】

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
観光環境研究演習Ⅰ	4	李 鎮栄	論文の書き方はもちろん、論文長のフォーマルな文の書き方について指導していく。演習なので「論文」が生産できるように指導していく。
観光環境研究演習Ⅰ	4	新垣 裕治	<p>新たな観光の分野としてエコツーリズム (E c o t o u r i s m) が世界的に注目を浴びている。日本では '90 年になり一般的に使われるようになってきた用語で、一般的には「訪問地の自然・文化をより深く知り・学び、自然・文化の保護・保全と地域の振興に寄与する観光形態」と理解される体験型の観光を示す概念である。沖縄県では、1996 年に日本初の西表島エコツーリズム協会が設立、その後 '99 年には日本で 2 番目の東村エコツーリズム協会が設立され、エコツーリズムの取組みが比較的早くから起こった先進地域と捉えられている。しかし、現状としてはエコツーリズムの導入 (エコツアー実施) による環境の悪化等様々な問題が顕在化し、必ずしもいい状態であるとは言えない。本演習では、このような様々な現状の分析や課題・問題を解決するための調査研究を主に環境の側面から行うことを目的として行われる。</p>
観光環境研究演習Ⅰ	4	大谷 健太郎	<p>本演習のテーマは「地域における望ましい観光のあり方」であり、地域振興やまちづくりの中で観光を位置づけ、政策立案ができる能力を身に付ける。そのためには、観光学はもちろん、基本的な経済学の知識が必要であり、統計分析ができる能力や政策科学の学習も必要である。さらに、問題を細微にわたって分析できることと、常に広い視野を持ってポイントを押さえることも要求される。</p> <p>したがって、本演習では、理論と実践の意味連関を重視し、フィールドワークによって実践力を身に付け、単なるレポートや論文でない、「生きた」方策が論理的に組み上げられるように訓練する。</p> <p>また、論文の基本的なルールからはじまり、構成や引用、先行研究のまとめ方など修士論文に必要な基礎力もあわせて指導する。</p>
観光環境研究演習Ⅱ	4	李 鎮栄	論文の書き方はもちろん、論文調のフォーマルな文の書き方について指導していく。演習なので「論文」が生産できるように指導していく。

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
観光環境研究演習Ⅱ	4	新垣 裕治	同演習Ⅰで行ってきた内容を充実発展させ修士論文としてまとめることを目的として行われる。
観光環境研究演習Ⅱ	4	大谷 健太郎	演習Ⅰに引き続き、同様のテーマで修士論文を執筆する。演習Ⅰで得た内容を発展させ修士論文にまとめ上げることを最終的な目標とする。 また、修士論文の途中経過をまとめ、学会発表などに投稿する論文の指導も併せて行い、論文に必要な基礎力もあわせて指導する。
観光開発特論	2	大谷 健太郎	観光開発は、地域振興を目的とした観光政策であるので、本講義では公共の利益を重視した公共政策的アプローチを採用する。したがって、観光開発の目的を社会的厚生を最大化とし、観光開発が経済社会や環境、文化に与える影響をはじめとする開発と地域の関係に重点を置き、望ましい開発の理念と手法の説明を中心として講義を進める。本講義では、まず、国内的・国際的に汎用性のある観光開発の概念や仕組みを総論的に学ぶ。その後、方法論として観光開発の計画評価に必要な社会的費用便益分析や多基準分析、地域計画実践の際の需要予測手法や多変量解析手法などについての考え方を説明し、具体的事例を用いながら評価方法の技術的側面の理解をめざす。
観光政策特論	2	大谷 健太郎	近年、観光基本法を全面的に改正し、インバウンド・ツーリズムの推進や地域活性化などをキーワードにして観光立国推進基本法が施行された。観光による地域活性化の目的は、国および地域の魅力増大によって来訪問が増加し、観光の地域経済的社会的効果を最大化することにあり、その効果を予測および検証する政策評価の過程が重要である。本講義では、第一に国内外における観光政策立案方法と事例を概観する。その後、政策立案に関わる事前評価および政策実行の効果に関わる事後評価の政策マネジメントサイクルを理解し、地域の活性化を目的とした観光政策の評価手法の講義を行う。

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
島嶼開発特論			<p>Welcome to my special lecture on island sustainability focusing on islands of Okinawa. Upon completing this class, students should be able to learn various concepts and tools or model cases to analyze the current issues facing island sustainability such as socio-economic development and environmental conservation, work-life balance, sustainable community, sustainable agriculture, sustainable tourism, networking and human resources development and sustainable policies and management. Learn actual methods and practices of sustainability through visiting local communities, industry, typical tourism sites and public authorities. Construct your own sustainable models or arguments based on data / interviews/case studies. You are requested to present your field research findings and in-depth analysis toward the end of class. You are requested to submit a quality term paper at the end of this semester. This course aims at three Es, namely, Empowerment, encouragement, and Enjoyment.</p>
島嶼文化特論	2	李 鎮榮	<p>日本の周辺に位置する沖縄県のような島嶼社会の場合、中央に対する求心力と「外」に対する遠心力の両方の力が作用している。島嶼社会は規範文化から「周辺の位置」に在るだけでなく、市場経済においても中央の支配を受けやすい。沖縄のような島嶼群からなる社会が持つローカルティニー性について学習し、どういふ開発の仕方が望ましいのか考察していく。</p>
異文化接触特論	2	李 鎮榮	<p>既存の社会に新しい風穴を開けるのは常に「異人」である。異質なもの・異業種の集合体が繁栄することは容易に観察できる。この講義では、国境の越え方や境界を越境する意味について講義する。また、「異文化」を通して人間の普遍的な価値について構造人類額の観点からアプローチする。</p>

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
ホテル実務特論	2	黒江 浩紹	<p>沖縄の観光産業は、1972年の復帰以来順調に推移し、よくも悪しくも評価されてきた。では、沖縄観光の特徴はどのように変化してきたか。沖縄観光の競争優位はどこにあったのか。今後はどのような点で競争優位を発揮できるのか。このような沖縄観光の基本問題を、過去現在に分けて検討し、沖縄観光の将来方向を探ってみる。</p>
エコツーリズム特論	2	新垣 裕治	<p>エコツーリズムとは、一般的には「訪問地の自然・文化をより深く知り、学び、自然・文化の保護・保全と地域振興に貢献する観光形態」と理解される。エコツーリズムは従来の観光の反省に立って考えられた観光の一形態であり、これまでの観光のイメージを大きく変える可能性を持っている。本講義では、エコツーリズムの概念、ツアー事例、エコツーリズム資源と構成要素等を通してエコツーリズムへの現状についての理解を深め、これを基にエコツーリズムの課題について考察していく。</p>
観光市場分析特論	2		<p>本講義は、沖縄観光の現状と問題点、課題把握のために、全国的な旅行市場の動向、観光地の動向等の統計データ、資料に解説を加えながら、その把握手法について講義する。本講義は、沖縄で唯一観光学科を有する本大学学生として、学生諸君が沖縄観光の現状と課題に対しての知見を持つと共に、観光動向に現状分析把握手法を理解して、国、県や市町村の観光行政における計画実務者向けの素養を修得する事に力点をおく。</p>
観光資源特論	2	許 点淑	<p>観光資源には自然景観などの自然資源と文化的・社会的資源の人文資源に大別できる。本講義では主として後者に「文化」の視点からスポットを当てる。有形・無形観光資源も歴史の変遷とそれを取り巻く社会変化を連動させながら、世界各地の事例から観光資源への人類学的意味づけを行うものである。</p>

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
島嶼生態学特論	2	新垣 裕治	<p>島に棲息する生物と環境の関連、あるいは生物同士の関わりを生物の適応・進化・多様性などの観点から扱う分野が島嶼生態学である。本講義では、島嶼県である沖縄を島嶼生態学の観点から捉え、生物・自然・環境等の特徴を明らかにしていく。また、これら特徴は沖縄の観光資源としても極めて重要であるので、観光との関連についても言及も試みる。</p>
観光文化特論	2	許 点淑	<p>本講義では、観光という人間行為の本質的なトピックを文化と関連づける研究成果に学びながら、前半では、観光と文化に関する理論的枠組みのディスカッションを中心に、後半では、世界の地域別事例研究から観光と文化の有機的動態を読み取っていくものである。</p>

【 人間健康科学教育研究領域 】

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
人間健康科学研究演習Ⅰ	4	小川 寿美子	“健康とは何か”を広く考える学問である公衆衛生学を広く捉える力を養うことを目標とする。具体的には、健康のための実践的行動力を養うため、ポートフォリオを通じて公衆衛生学に関するプロジェクト研究を体系的におこなう。
人間健康科学研究演習Ⅰ	4	向山 貴仁	本演習は、体育・スポーツを対象としたスポーツ科学分野の研究活動に関する演習である。演習Ⅱで取り組む修士論文に向けて、各自の興味関心や課題とする事項についての検討を行い、テーマ設定・先行研究の検討・論文構成、研究計画の具体化を図る。
人間健康科学研究演習Ⅱ	4	小川 寿美子	“健康とは何か”を広く考える学問である公衆衛生学を広く捉える力を養うことを目標とする。具体的には、論理的な文章力と文献の読解力を養うための基礎固めをするため、公衆衛生学に関する数多くの論文、資料を精読し、多方面からの知識を涵養し、修士論文を仕上げる。
人間健康科学研究演習Ⅱ	4	向山 貴仁	本演習は、体育・スポーツを対象としたスポーツ科学分野の修士論文をテーマとする院生のための演習である。 演習Ⅰで設定した各自のテーマを修士論文の完成に向けて研究計画、論文構成、資料収集、論文執筆等の作業の具体化を図る指導をおこなう。

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
地域保健学特論	2	吉川 千恵子	<p>健康・ウェルネス、ヘルスプロモーションの概念を基礎として、地域社会・生活・文化から生ずる健康問題や、現在、国の健康施策として展開している「健康日本 21（第2次）」が沖縄県や市町村でどのように実践されているか、各健康レベルとライフサイクルの視点から考究する。また、地方自治体における健康政策づくり、保健計画策定・施策化と予算のしくみ、それに対応する地域保健医療活動の要素やツールを理解し、人々の健康支援などにおいて総合的企画者・協働的実践者、地域保健医療システムの開発に参画する。さらに教育研究者としての生きる知識と技法を会得し、沖縄の地域における実践例から保健医療問題と解決策を考察する。</p>
健康・スポーツ指導特論	2	高瀬 幸一	<p>健康指導やスポーツ指導の現場においては、専門的な知識を如何にして効果的に伝えるかが重要になる。今日の健康科学やスポーツ科学の進歩はめまぐるしいものがあり、「健康科学やスポーツ科学」に関する正しい理論・知識を習得し、それを実践していく手法（スキル）を身につけることが必要となる。</p> <p>また、超高齢化社会の今日、一般健常者や中・高齢者などの運動未経験者の健康・体力特性に視点を置いた運動指導は、十分になされているとは言い難い現状がある。</p> <p>本特論は、日進月歩する分野における最新の理論を論じながら、日本における健康・スポーツ理論について考察する。</p>
伝統舞踊特論	2	花城 洋子	<p>比較動作学の視点から、世界に伝わる民族の伝統舞踊についてその舞踊特性を捉え、伝統文化について理解することが出来る内容を提供する。さらに、ノンバーバルコミュニケーションからみた身体表現というテーマで、日常生活における身振りしぐさや所作等について観察・調査をしてプレゼンテーションを行う。</p>
伝統武道特論	2	盧 姜威	<p>この授業科目において、武道に内在する日本文化の本質を理解し、スポーツと異なる日本伝統武道の特質の理解を深めていくと同時に、武道全般にわたる基礎知識を的確に把握する。その上、沖縄伝統空手道の歴史的変遷について考察していく。</p>

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
国際スポーツ・体育史特論	2	向山 貴仁	<p>体育・スポーツの生成及び発展について、欧米諸国や近代社会におけるスポーツと国民教育、学校体育の展開及び、我が国の学校体育について考究する。</p> <p>体育・スポーツの制度、目的、内容、方法、教員養成等の変遷を対象として分析を行うとともに、内外の論文や資料を講読しながら考察・討議する。</p>
トレーニング特論	2	竹内 伸也	<p>発育・発達途上の青少年に対する体力づくりは、Training（鍛錬）なのか、Exercise（運動）なのか、その境界はあるのか、一步間違えれば発育、発達に影響を与える危険性がある。</p> <p>また、中・高年者の体力づくりでは、運動の内容をどのように設定するか。更には、競技者の Training には限界があるのか、世界の超一流選手の Training とは如何なるものか。運動生理学・人間機能学を背景に総合科学的・社会学的に究明する。</p>
ヘルスプロモーション・ウェルネス特論	2	杉本 英夫	<p>ヘルスプロモーション・ウェルネスについての理念は現代の先進諸国における健康政策においては不可欠な理念である。現在そのことを理解し、その理念で健康政策を立案する基本的能力を身につけたウェルネス・マネージャー的人材は幅広く求められている。ヘルスプロモーション・ウェルネスの理念は現代社会における健康政策のパラダイムとも言える。</p> <p>本講義ではその理念の起こりと歴史的背景、健康観についての歴史的変遷、健康政策への活用と評価の視点を講じ、ヘルスプロモーション・ウェルネス理念を理解した健康政策立案への基本的能力を習得することをねらいとする。</p>
健康栄養学特論	2	新城 澄枝	<p>生活の中での食事の意義や現代における食生活と健康問題との関連について理論・知識を深める。現代の食の課題であるメタボリックシンドロームの概念に基づく生活習慣病予防や食品の安全・安心、食を選択する能力を培い、また、沖縄の食文化に触れ長寿との関連で学習を深め、健康の為の食の自己管理能力を高める。</p>